
真龍が直江大和に憑依した。

朱雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真龍が直江大和に憑依した。

【Nコード】

N8676Q

【作者名】

朱雀

【あらすじ】

2009年、9月頃直江は一つの失恋をした。

それは川神百代に振られた日であった

大和は、帰りショックを隠しきれずトボトボしながら帰っていくと空から真っ黒く体はまるで宇宙を表現するようなドラゴンが現れた。大和は逃げようとしたがそのドラゴンに飲み込まれてしまった。

だが、飲み込まれた後とんでもない事を知らされてた。その話とは一体

主人公紹介&力量紹介&注意書き

主人公紹介

憑依前

直江大和

性別 男

体 岳人程ではないが中々良い筋肉を持っている

力 風間ファミリーで知能を持っているだけで力は仲間中最下位

武器 拳

好きな物 ヤドカリ、仲間

嫌いな物 差別する&差別されること

仲間を馬鹿にする奴

憑依後

直江大和

性別 男

体 憑依しても岳人より筋肉は無いが結構逞しい肉体になっている
力 憑依する事で攻撃力&防御力&スピード&知能が上昇しもはや
大和に勝つ人間など存在しない

武器 銃「対化物戦闘用13mm拳銃ジャツカル」

「454カスール カスタムオートマチック」

剣「聖剣ファールウエル」

「魔剣レヴァンスティン」

長刀「村雨」

杖 「聖杖ミリオン・テラー」

武器は普段姿を消している。必要な時だけ出現させている

好きな物 ヤドカリ、滅龍、真龍、四神龍 e t c (3年S組に何人か居る)

嫌いな物 アキラ(百代を奪ったから)人間(龍が擬人化^{だがすべてではない}した姿は別)

得意な物 アイテム作り

特殊能力 自己再生(瞬間回復よりもスピードがいい)エネルギー弾を全て吸収、蘇生術 不老不死、お金を出す事が出来る。(何の犠牲もなしに。本当に困っている者だけに出す)、不老不死にさせる能力(自分が愛した者しか出来ない)

服装 学園に行くときだけは制服だがそれ以外は全身真っ黒い服(自由に服を消したり着る事が可能)更に姿&気配を完全に消す事が可能、壁を通り抜ける事が可能。いかなる攻撃も無効化出来る

得意技 魔法&剣術で敵を粉碎する

性格 自分が本当に愛した女性は本気で守るがそれ以下の奴らの命は守る義理はない。

剣術

飛連斬 特技

双連撃 特技

幻影刃 特技

月閃光 特技

千裂虚光閃 奥義 短剣で敵を打ち上げ、神速の5連突きを繰り出す

粉塵裂破衝 奥義

崩龍斬光剣 奥義

魔人千裂衝 秘奥義

浄破滅焼闇

翔破裂光閃

義憐聖靈斬

真神煉獄刹

大魔法

バーンストーム：イフリートキャレス

ファイヤランス：カラミティブラスト

クールダンセル：アブソリュートゼロ

アイシクルエッジ：デルタストライク

ブリズミツクミサイル：グラビティプレス

ブルーティツシュボルト

ストーントウチ：カルネー吉安セム、

ポイズンブロウ：ペドロディスラプション、

メテオスウオーム、

イグニートジャベリン：セラフィックローサイト

クロスエアロイド：セレスティアルスター

能力ランク 最大SSS+

攻撃力 SSS+

防御力 SSS+

スピード SSS+

魔力 SSS+

知能 SSS+

体力 SSS +

ドラゴン紹介

真龍

大きさ 300m

特殊能力 眼力（この力はその男性の心を聞く事が可能&その男性が何者か分かる事が可能）

このドラゴンは裏球と言ってもうひとつの地球の世界の破滅をもたらすドラゴンだったが、光のドラゴンセンコークーラ&レイジの力で封印されたが神様が目の前に現れもう一度復活したいか？と言った復活を遂げたいと言い復活をしたが神様がこう言った

神様「今川神市には危機が訪れようとしている。その危機は川神市に竜が現れ人間達を滅ぼそうとしている。そしてマロードという人間がユートピアという違法な薬をばらまけている。だから、そいつらを倒してほしい」と言った。真龍は汚れている地球など救いたくはない、人間が滅ぼうが私には関係ないと言った。すると神様はこう言った。「お主が世界の代弁者になって世界が変わらなければ世界を消滅させ、新たな世界を創ったらどうじゃ？」と。真龍には世界を創る事が出来る事である。真龍はその言葉で納得し神様と共に川神市に瞬間移動をしたが今の姿は目立つ安いと思い誰かに憑依しようと考えた。そこに直江大和がいたのでその人物を吸収し大和に危険を知らせ力を貸した。

真龍擬人化ver

性別 女性

姿 リンフォースアインス

3サイズ B110/W55/H87

性格 大和以外の人間には冷酷、そして大和以外の人間がどうなる
うとどうでもいい

服装 真っ黒い服

武器 拳

好きな者 大和

嫌いな者 人間（特に大和が人間嫌いにさせた張本人である百代）

元龍

大きさ 300m

元龍はもともと真龍と一つだったが
何らかのトラブルで分離してしまった。

元龍は探しに行こうとしたが何処に行けば良いのか知る筈もな
かった

すると四神龍が真龍が居る場所を知っていると行って一緒に付いて
行った
付いて言った後そこは見知らぬ世界だった

元龍擬人化ver

セリナ

性別女性

3サイズ B110 / W55 / H87

性格 真龍と同じ性格で大和以外の人間が死のうが生きようがどう
でもいい性格

服装 真っ黒い服

武器 拳

属性 全て

好きな物 直江大和

嫌いな物 人間、そして一番嫌いな物は川神百代（大和が人間嫌いにさせたから触れられただけでも吐き気を起こす。）

能力ランク

攻撃力 S S S +

防御力 S S S +

スピード S S S +

魔力 S S S +

知能 S S S +

体力 S S S +

仲間

四神龍

四神龍とは元々真龍を封印していた4体のドラゴンであったが謎の神様によって封印が解かれてしまった。

四神龍はもう一度封印するために川神市に行ったが真龍は川神市を救わなければいけないと言い、封印を拒んだ。

四神龍は仕方がないので封印するのはやめた。

だが自分たちも此処に残り地球を守りたいと言い真龍の傍に居る事になった。あとから恋心を持つようになる（勿論、四神龍全員不老不死である。）

四神龍人間ver紹介

ザファイア

性別 女性

髪 赤い長髪

髪型 ポニーテール

服装 メイド服

身長 168 / ドラゴンver16m

3サイズ B106 / W55 / H88

年齢 18歳

武器 薙刀

属性 甲

好きな物 直江大和

嫌いな物 直江大和以外の人間

得意技 咆哮波

朱雀衝撃波

能力ランク

攻撃力 SS+

防御力 AA+

スピード AA+

知能 SSS+

魔力 SS+

体力 SS+

パルレズイ

性別 女性

髪 腰まである青い長髪

髪型 ストレート

服装 メイド服

身長 165 / ドラゴンver14m
3サイズ B103 / W55 / H88
年齢 17歳
武器 剣「エクスカリバー」
属性 風
好きな物 直江大和
嫌いな物 大和以外の人間
得意技 神速のスピードで相手を切り裂く

能力ランク

攻撃力 SS+
防御力 SS
スピード SS+
知能 SS+
魔力 A
体力 SS

ルビーン

性別 女性
3サイズ B103 / W55 / H88
髪 腰以上にある水色の長髪
髪型 ポニーテール
年齢 17歳
身長 170cm / ドラゴンver16m
武器 拳
好きな物 直江大和
嫌いな物 大和以外
属性 雷

得意技 雷パンチ（人間が作った武器は全て破壊可能）

能力ランク

攻撃力 SSS

防御力 AAA

スピード SSS

知能 SSS+

魔力 A

体力 SSS+

オパール

性別 女性

3サイズ B102/W55H87

年齢 18歳

身長 168cm / ドラゴンver 17m

武器 刀

属性 闇

好きな物 直江大和

嫌いな物 大和以外の人間

得意技 「ナイトメア」悪夢を見せた相手の精神を崩壊させる技。
（ドラゴンには効かない）

能力ランク

攻撃力 SSS

防御力 SS

スピード SSS+

知能 SSS+

魔力SSS

体力SSS

注意書き

この物語に出てくるユートピア事件には葵冬馬達や板垣3姉妹は関係していない

真龍の役目

真龍は裏球と地球を破滅するドラゴン

だからレイジ達は最大の力で真龍を封印しようとした

だが

流石最強のドラゴン

シンセイバーの力でも倒せなかった

真龍「光よ、何故本気を出さない？このままでは世界を壊滅するぞ？それとも手を抜いているのか？」と言った

レイジ「くそ～～！俺は諦めねえぜ！皆の力を貸してくれ！」と仲間と言った

ロツカク「分かったぜ！」

メグル「うん！」

萩原「良いぜ！」

雪野「うん！」

氷室ヒカル「、、ふん！今回だけだぞ。」

純柴一郎「仕方がないな、良いよ。」

タイヨウ「レイジ君、必ず勝つてよ！」と仲間が力を貸してくれて
センコークーラーに新たな力が出た

更に大きさは真龍と同じ位になった

真龍「光よ、やっと本気を出してくれたか。では、行くぞ！」と真龍の全ての力を出してセンコーラーに攻撃をした。

だが

センコーラーのシンセイバーによって攻撃が消され

そして自分の体をシンセイバーによって貫かれ真龍は倒された

真龍「この私がやられるなんて。」と思い目を閉じ永遠の眠りに入ろうとしていた

その時！

????「君はまだ死なせるわけには行かないよ。」と謎の声が聞こえてきた

真龍「誰だ？」と闇の中を捜していた

すると

闇の中に光が見えてきた

そして

白い服を付けている老人が現れた

真龍「、、、何者ですか？どうやって此処に。」

????「私は神様じゃ。お主、もう一度復活しないか？」と言ってきた

真龍「復活できるの？」

神様「おう！、じゃが君はこの世界ではなく川神市という所に行つて貰うよ。そして川神市で危機が訪れようとしている。その危機を救つてほしい、どうじゃ？」と言つた

だが

真龍「断る。」と言つた

神様「何故じゃ？」

真龍「蘇つて何になる。蘇つて人間界を救えだと、私は認めません。何故なら地球は腐っていますからね。強者は弱者を虐げ、弱き者は強者の命令を聞く、そして無駄な戦争をして無駄に散っていく。それが人間だ。そんな世界など救う価値もない。」と言つた

神様「、確かに今の地球はお主の言うとおりじゃ。では、お主は世界の代弁者となつて世界が少しでも変わらなければ世界を破壊して新たな世界を創つたらどうじゃ？お主にはそれが出来るじゃろ？」と言つた

真龍「代弁者ですか。、、中々面白いですね。それなら構いません。世界が変わらなければ世界を消滅させ新たな世界を創りましょう。」と少し微笑みながら言つた

神様「では、今すぐに行つてもらうがその姿では完全に目立つじやろつ。、、ワシも一緒に行こう。」と言つて真龍と共に川神市へと瞬間移動をした

吸収

川神市

現在の日付

2009年9月1日

この頃丁度川神大戦という大会が終わった1日後だった

大和は百代にもう一度告白をしようとした。

一度目は気持ちが悪わってこなかったと言ってあっさりと振られてしまった

だが今の大和は本当の気持ちが伝える気がするのでもう一度告白をしようとした

百代を探しに行き河原で告白をした

大和「姉さんが好きだ！！付き合ってくれ！」と。

だが返ってきたのはとんでもない事だった

百代「大和、ごめんな。」だった

百代「お前の事は男として認めてる。だが、付き合うかと言われるば私は舎弟のままで良いと思ってしまっただ。大和と一緒にいると最高に楽しい、だが恋とは違う気がするんだ。真剣な気持ちは伝わ

った、ありがとう。でも、、最高の友達でいないか？」と言った。

つまり自分に恋愛感情は無いと言われたのだ

大和は茫然としていた

百代「じゃあ、な。」と言って去って行った

だが大和は気付いただろうか

百代が泣いている事に

百代「（本当にごめんな、大和。）」と涙を流していた

暫く経って

大和はショックを隠しきれず涙を流しながら帰ろうとしていた

その時だった

橋の方に大きいドラゴンが現れたのだ

大和「な、何だあれは！あれはドラゴン？」と言って近づいて行った

すると

そのドラゴンが大和を見たのだ

すると口を大きく開け大和を襲ってきた

大和「な、なに〜！お、俺を食べても不味いぞ〜！ああ〜！」
と言ったがそのドラゴンに食われてしまったのだった

真龍 side

神様「ほれ、着いたぞい。」と言った

真龍「此処が川神市ですか？、やはり汚れていますね空気が汚れている。苦しいです。」

神様「やはりお主には此処の空気は合わないのか。ならばワシが合うようにしてやろう。」と真龍の体に触れた。

すると自然に苦しみが無くなっていった

真龍「こ、これは！空気が苦しくない！」

神様「まあ、合うようにしていただけじゃ。さてと、今の姿では目立ちやすい。、、どうするか、。」と言った時だった

????「な、何だあれは！ドラゴンか！」と若い青年が言ってきた

神様「ん？あの少年。、、仕方がない。真龍、あの子を自分の体内に入れなさい。」

真龍「は？な、何故です？」

神様「今の姿では目立ちやすいのじゃ。そこで彼を体内に入れ憑依させるんじゃ。」

真龍「、、分かりました。彼に憑依しましょう。」と言ってその青年に向かって口を大きく開け吸収した

side 終了

大和は意識を取り戻した

すると

黒いドラゴンが現れた

大和「ちょ！貴方は何なんですか！いきなり食べるなんて。」と言った

龍「その事については謝ります、すいません。ですが食べた理由があります。」と謝りながら言った

大和「理由だって？その理由って何？」

龍「信じてほしいのですが、今から2年後の話です。川神市にドラゴンが出現し川神市が滅んでしまいます。更にそのドラゴンを倒す事が出来ても、次にマロードという人間がユートピアという違法な薬をばら撒き、地球の人々は次々に殺されてしまいます。マロードという人間を発見し倒さなければこの世界は、死の世界になってしまいます。」と言った

大和「ドラゴン？死の世界？本当なんだな？」

龍「はい、そうです。」

大和「分かった。貴方の事信じましょう。、、で貴方は俺にどうしろと言うのです？」

龍「私が貴方に憑依します。そして、憑依後、貴方は最強の力を手に入れます。その力で世界を救って欲しいのです。、、ですが、憑

依後、貴方は不老不死になつてしまふのが欠点ですが、どうしますか？」と聞いてきた

大和「不老不死、つまり永遠に死なない体になるのか。、、分かった、それでも良い。世界が救われるのなら。」と決心してドラゴンに近づいた

龍「分かりました。あ、そうだ。私の名前まだでしたね、私の名は真龍。私は世界を滅ぼし世界を創る事が可能なドラゴンです。」と言った

大和「世界を滅ぼし世界を創るドラゴンって危険じゃないのか？」
真龍「安心してください。今すぐに世界を滅ぼしはしませんが一向に世界が変わらなければ世界を壊し新たな世界を創る事に行っているのです。もちろん、貴方の命だけは助けますが他の命は消します。」と恐ろしい事を言った

大和「凄い恐ろしいな。まあ、世界が変われば大丈夫なんだろう？
だったら時間は掛かるかもしれないけど何時か変わるさ。」

真龍「信じているのですね、人間達の力を。」

大和「まあね。あ、俺の名前もまだだったね。俺の名前は直江大和だ、よろしくね。」と言った

真龍「では、大和さん、貴方と憑依しますが一つ忠告があります。」

大和「忠告？」

真龍「その忠告は、あんまりドラゴン化しないでください。ドラゴン化をすれば貴方は人間扱いされず兵器として使われる可能性もありますから。ドラゴン化は奥の手で使ってください。」

大和「ああ、分かった。」

真龍「では、今から貴方に憑依します。憑依後貴方の目の前に私が

造った武器や服装がありますので受け取ってください。」

大和「分かった。」

真龍「では、行きます。」と言って真龍は姿を消して大和に憑依してきた

大和はいきなりの頭痛で意識を失くしてしまった

意識が戻ると目の前に武器があった

大和「ん、うん、武器と服装でこれね、」と武器を受け取った

銃、長刀、杖、剣があった

そして

真っ黒い服装も隣にあったのですぐに着替えた

その武器は人間では造る事が出来ない品物であった

大和「本当に最強の力を手に入れたのかな？」と言った

すると

真龍「本当です。では、その証拠に、えっと、あ！丁度良い奴等が現れましたよ。」

大和「え？丁度良い奴等って？」と言った後だった

「????」「オウオウ、テメエなんでここに居るんだ？此処は俺達の縄張りだぜ死にたくなければ此処から失せろ。」というこの場所を乗っ取っているヤクザのボスだろうか刀を向けて言ってきた

大和「（最強の力を手に入れたんだ。こいつ等なんて大した事が無いはず！）消えるのはお前たちだ！」と目付きを鋭くしながら言った

ボス「何だと！は！良い度胸しているじゃねえか！おう、お前らやつちまいな！」と30人の部下が大和に襲ってきた

だが

大和に攻撃が当たる事無く30人の部下が一瞬で倒されたのだ

大和「あれ？こいつ等弱すぎるぞ？」

真龍「ね？どう？最強の力は？」

大和「最高だ！さてと、あとはお前だけだぜ？」と刀を持ちながらゆっくりと歩いて行った

ボス「く、くそ～～！覚えてやがれ～～！」と言ってその場を去って行った

大和「逃げたか。真龍、この服の能力はなんだい？」と言った

真龍「その服装はバズーカ、戦車の攻撃、ロケットランチャー、マシンガン、人間が作った全ての攻撃をまともに食らっても完全に無傷になれる服装です。更に人間が作った刀などその服装に触れた瞬間真っ二つになります。そして、その服装している最中の時だけでなく瞬間移動をしたり空中浮遊が出来るようになります。どうでし

よう？」「言ってきた

大和「、、まるでチートだな。まあ、良いや、これで俺は最強の人間になった。俺は必ずこの世界を救って見せるぞ！」「言った

その頃

真龍はと言うと

神様「どうじゃ、あの少年は。」「言ってきた

真龍「ええ、私が憑依したとはいえあのような力を出すとはますます気に入りましたよ。」「

神様「そうか。何か困ったらワシに言え。少しでも助けになれるだろう。」「

真龍「ええ、分かりました。」「言った

オリジナルキャラクター紹介

オリジナルキャラクター

大塚 アキラ

性別 男

誕生日 10月20日

年齢 18歳

武器 拳

好きな物 百代、料理

嫌いな物 勉強 弱気を見せる事

体 鍛えているのか良い体をしている（だが憑依した大和よりかは多少負けている。）

顔 結構イケメンである

技 無双正拳突き

かわかめ波

瞬間回復

アキラは百代と共に釈迦堂に技を鍛えられた者同士で

アキラは共に修行していると百代に恋心を持つようになり百代に告

白をした

だがその時アキラは力も無く釈迦堂に鍛えられても弱く百代はもつと強い人間になれ。そうすれば私はお前を好きになる事が出来るだろうと言った。アキラはその言葉を信じて川神院から出て他の所で修行して強くなる！といって川神院から去って行ったこの時の年齢は8歳だった

それから10年、釈迦堂元師範代に鍛えられたアキラが川神市へと戻って来た

アキラの力は川神四天王を倒せる程まで強くなっていた。

アキラは百代にもう一度告白する為、百代と付き合うため再び川神市へと向かうのだった

大塚アキラがこの川神市に戻ってきた

百代に振られてから1日後

大和はまだ元気がないが前よりも良くなっている

何時ものように風間ファミリーと合流して登校しようとした時だった

橋の上にフードを被っている男性が居た

一子「あ！橋の上に誰がいる。きつとお姉様の挑戦者ね。」

百代「よしよし、この時を待っていたぞ！」と言って戦闘の準備をした

するとフードを被っている男性が言ってきた

「???」「貴方が川神百代さんですね?」と。

百代「いかにも。」

「???」「私の力、どの位なのか受けて頂きます!」と名前を言わず攻撃をしてきた

百代「おっと！危ないなあ。ってお前は誰だよ。名を名乗ったらどうだ?」と言った

「???」「名前ですか?名前はこの攻撃を見せたら分かるかな?」と技の構えをした

百代「あの構えは、まさか!」と言った

????「川神流、”無双正拳突き”！」と技を出した

百代は何とか防御をしたが技で正体がわかったのだ

自分の技が出せる人は釈迦堂元師範代

そして過去に一子と共に修行したアキラだけである

百代「お前は、大塚アキラなのか？そうだろう！」と言った

するとフードを被っていた男性はフードを外し顔を見せた

アキラ「ああ、そうだ。久しぶりですね、百代、元気でしたか？」
と言った

百代「アキラ……！」と抱きついてきたのだ

風間ファミリーは全員驚いたのだ

百代は男性には抱きつく事は無いのにアキラと言う男性には抱きつ
いたからである

大和はというと

大和「（何故、あの男に抱きつくんだ？俺にはあんな事しなかった
のに！）」と嫉妬していた

すると

真龍「大和、大丈夫ですか？」と真龍が心配そうに言って来た

大和「ああ、大丈夫だ。真龍、あの男は何者だ？」と言った

真龍「あの男ですか？、その事は分かりません。恐らく川神百代の知り合いだと思われますが。」

大和「そうか、分かった。一応、姉さんに聞いてみるよ。」と言いい百代に問い詰めた

大和「姉さん、その男性は？」と。

すると

百代「あ、ああ！この男はな一子も知っているとと思うが昔、私と共に修行した大塚アキラだ。」と言った

一子「ええ〜！あのアキラなの！まるで別人よ！」と一子はアキラに抱きつきながら言った

アキラ「一子、久しぶりだな。修行の方はどうだ？」

一子「うん！そりゃあ毎日特訓しているわ！早くお姉様に追い付きたいからね！」

アキラ「そうかそうか、偉いな。」と頭を撫でていた

すると

アキラは重大な事を忘れていた

それは

アキラ「あ！自己紹介がまだでしたね。俺の名前は犬塚アキラとい
います。俺は百代や一子と共に修行した身です。そして、釈迦堂元
師範代にも修行させてもらってこの通り強くなって帰ってきました。
」と言った

百代「ほう？本当に強くなったのか今日の朝会で勝負しないか？」
アキラ「おう、良いぜ！俺の実力見せてやるぜ！」と二人の世界へ
と行った

真龍はというと

真龍「大和、もう諦めた方が良い。もう、あの女の心にお前は居な
い。」と頭の中で言った

大和「分かっているよ！分かっているけど、でも、簡単に諦め切れ
るわけない！」と答えた

真龍「貴方が苦しむだけです！」

大和「それでも、俺は今でも姉さんを想い続けるよ。」と笑顔で言
って通信を切った

そして風間ファミリィは川神学園に着き朝会を始めた

鉄心「では、朝会を始める。、、、といったのじゃが百代、何か言
いたいそうじゃな？」といった

百代「ああ！私は犬塚アキラと勝負がしてみたい！」と笑顔で言った

鉄心「分かった。では、対決するが良い。では、皆の者、対決の邪

魔になるので下がるのじゃ。」と言って下がらせた

鉄心「今から、川神百代vs大塚アキラの対決を始める。二人とも準備は良いか？」と聞いてみた

百代「おう！いつでも良いぞ！」

アキラ「ええ、俺も良いですよ。」と攻撃態勢に入りながら言った

鉄心「では、、、試合、開始！」と言った

百代「はあああ！」

アキラ「うおおおお！」と攻撃をしたり回避したりした。

百代「やるじゃないか！アキラ、結構楽しいぞ！」

アキラ「俺も楽しいぞ！」

百代「そうか！じゃあ、この技はどうだ？」と技の構えをした

百代「川神流、無双正拳突き！」と攻撃をした

だが

アキラはそれを回避してアキラも同じ技を出した

そして決着した

アキラの攻撃が百代のお腹に直撃し気絶してしまったのだ

だが

気絶する寸前

百代「アキラ、本当に強くなったな。私は、嬉しいぞ。」と言った

鉄心「そこまで！勝者、大塚アキラ！」と勝利宣言した

大和はと言うと

二人の対決は全く見ておらず誰かを探し学園の廊下を歩いていた

真龍「大和、対決が終わったようです。勝利者はアキラのようですよ。」と言った

大和「姉さんが負けたなんてね、結構強いね、それより真龍よ、お前はあの二人は使えそうか？ドラゴン退治には。」と言った

すると

とんでもない事が返って来た

真龍「正直言って足手纏いになるだけですな、あんな程度でボロボロになるようなら使えない。、やはり私達だけで退治するしかありません。」と冷たく言った

大和「そうか。でも、今の段階ならでしょ？今の段階は弱いけど、修行すればドラゴン退治に使えるよね？」と聞いてみたが答えは最

悪だった

真龍「修行しても役に立ちません。人間は私達と違って限界があります。」だった

大和「、、そうか。真龍が言うならそうかもな。」とガツカリしていた

真龍「、、ところで大和は今何処に向かっているのです?」と聞いてみた

大和「それはな、ルー師範代に行っているんだ。」

真龍「ルー師範代にですか?何故です?」

大和「姉さんが何故アキラに積極なのか聞いてみるんだ。あの二人の過去に何があったのか聞いてみるんだ。」と言ってルー師範代の部屋に向かうのだった

百代とアキラの過去

大和はルー師範代が居る部屋に来た

そして

中に入った

大和「ルー師範代、居ますか？」と探していた

すると

ルー「君は大和君じゃないですか、どうしたんですか？」とルー師範代が現れた

大和「えっと、姉さんとアキラさんの過去が知りたいのですが、分かりますか？」

ルー「百代とアキラの過去？ええ、知っていますが？」

大和「あの二人の過去を教えるは頂けませんでしょうか？」と言った

ルー「分かりました。では、とりあえずそのソファで座りましょう。」

大和「はい。」と二人はソファに座った

そして二人の過去を話した

ルー「あれは今から10年前になるね。」と話した

10年前

丁度

夏の7月30日

8歳の頃だった

釈迦堂に鍛えられ自分と対決する男性と勝負していた

だが一瞬で終わった

百代8歳「ジジイ！もっと、強い奴はいないのか！」と言った

既にこの頃から百代は最強になっていた

鉄心「今は居らんのう。」と言った

百代「なんだ、つまらないな。」と言って去って行った

百代は自分の部屋に戻って行った

百代「つまらん、もっと強い奴は居ないのか？」と言った

すると

???「百代、今日も勝ったんだね。」と男性が入って来た

百代「なんだ、アキラか。まあな、あんな弱い奴じゃつまらないけどな。」

アキラ「そういえば釈迦堂さんが一緒に修行一緒にやるかって言うてきたよ。まあ、僕も呼ばれたけど。」

百代「そうか、じゃあ、行くか。」と言ってアキラと共に釈迦堂が居る道場に行った

着くとすでに準備をしていた

釈迦堂「おいおい、遅いぜ。さあ、修行するぞ、百代、アキラ。」

百代&アキラ「はい！よろしくお願いします！」と言った

それから1時間後

修行が終わった

釈迦堂「よし！今日の修行は此処までだ。明日は朝6時からやるから準備をしておけよ。」と言って道場から去って行った

百代「ふう、良い汗かいたな。」

アキラ「うん、そうだね。」

百代「今から風呂入るかな。アキラはどうする、一緒に入るか？」と大胆な事を言った

アキラ「え？良いの？じゃあ一緒に入ろうかな。」と言って百代と一緒に風呂入った

百代は風呂に入っている最中

アキラの体をジロジロと見ていた

アキラ「どうした、百代。俺の体を見て。」

百代「いや、結構良い体をしているんだなと思って見ていた。」と体を触つて来た

アキラ「そうなのか。百代の体も結構良いぞ。」

百代「有難うな。」と二人は笑顔で言った

もうこの頃からアキラは百代の事が好きだったのかもしれない

アキラは何度も何度も告白をしようと思っていたが勇気が出せずにいた

そして

ついに告白をする決意をした

8月31日

百代の誕生日に告白をしようとしたのだ

何時ものように釈迦堂に修行してもらった後風呂に入ろうとした時だった

アキラ「百代、ちょっと良いか？」と百代を止めた

百代「アキラか。どうした？」とアキラに近づいた

アキラ「此処ではだめだな、少し場所を変えよう。」と百代を連れて河原の方に行った

河原に着くと既に夕日が綺麗に映っていた時間になっていた

百代「アキラ、話ってなんだ？」と言った

アキラ「百代、俺は、実は百代の事が好きなんだ。だから、その付き合ってくれないか？」と言った

だが

百代「アキラ、私はなお前の事が確かに好きだがその好きは友達でしかないんだ。アキラ、本当に私の事が好きならもっと強くなり私を倒せる程まで強くなれ。そうすればきっと好きになれるだろう。」と言った

アキラ「百代。分かった、俺は強くなりもう一度お前に告白をするよ。」

百代「ああ！楽しみにしているぞ。」と言って二人は帰って行った

川神院に戻ると一子が待っていた

一子「お姉様、お兄様お帰り、食事の準備できてるよ。」と笑顔で言ってきた

百代「ああ、有難うな。」

アキラ「一子、今日の修行はどうだった？」

一子「結構大変だけど強くなるためなんだから大丈夫！」
アキラ「そうか。」と一子を撫でた

食事が終わって

釈迦堂はもう寝ようと思った時だった

アキラ「あの、釈迦堂さん。お願いがあるのですが。」

釈迦堂「なんだ、アキラか。部屋に入れ。」

アキラ「はい、失礼します。」と釈迦堂の部屋に入った

釈迦堂「どうした？こんな時間に。」

アキラ「俺をもっと強くしてもらえませんか？俺を百代以上に強くなりたいのです！」と土下座をした

釈迦堂「アキラ、何があった？お前がそんなこと言うなんて珍しいじゃねえか。」

アキラ「実は、。」と全てを話した

釈迦堂「そうか、百代と付き合うため強くなる為にか。」

アキラ「はい。」

釈迦堂「まあ、良いぜ！ただし暫くは川神院には戻ってこないぜ。それでも良いのか？」

アキラ「構いません。俺は本気で百代付き合う為になら。」

釈迦堂「分かった。明日から川神院から離れるから準備だけはしておけ。」

アキラ「はい、分かりました。」と言って寝室に戻って行った

翌日

アキラは自分の柔道着

服装が入っているリュックを担いだ

釈迦堂「アキラ、準備できたか？」と言ってきた

アキラ「はい！準備完了です。」

釈迦堂「じゃあ、皆に暫くの別れを言っぞ。」と言って食事している皆の方に行った

釈迦堂はアキラと共に修行してくると言った

すると

百代「アキラ、本当に行くのか？」

アキラ「ああ、百代と付き合う為に強くなって帰ってくるからね。」

百代「分かった。待っているぞ。」と言い二人は去って行った

ルー「これが二人の過去ですね。」と大和に言った

大和「、、そうですか、アキラさんも姉さんの事が好きだったんですね。俺の告白なんて無意味だったんですね。」と落ち込んでいた

ルー「直江君、百代はな本当に君を大切にしていた。実はね、大和君の告白を断った後、百代は自分の部屋で思いっきり泣いていたんだ。心からごめんて言いながらね。でも、百代は今でもきつと今でも君の事が大切なんだ。だから。」と言おうとしたが大和は部屋から出て行こうとした

ルー「直江君、まだ話は終わっていません！」

大和「もう良いです。だいたい何が言いたいのかわかります、ルー師範代有難うございました。」と言って部屋から出て行った

大和は涙を流していたのだ

自分の告白なんて無意味だった

自分は百代にとって所詮弟しか見ていなかったのだ

真龍「大和、これで分かりましたね。あの女は貴方の事は見ていなかった。貴方の事をアキラの面影を見ていたに過ぎなかったのです。もう、あの女を好きになる事やめてください。」と言った

だが

大和「俺だって強くなったんだ。最強の力を手に入れている、その力を見せれば姉さんと付き合う事なんて出来るだろう！」と言った

真龍「大和、何故そこまであの女にこだわるのです？」

大和「だって、俺だけなんだぜ。俺の事気に入ったって言って。だから、だから。」と言った

真龍「大和、本当に好きなんですなあ女の事が。」

大和「うん。」と言った

真龍「諦めぬ心が大切ですからね。大和、頑張ってくださいね。」

大和「ああ！有難うな真龍。」と言った

だが

今日の金曜集会の時に現実を見る事になるとは思っていなかったのだった

ユートピア

大塚アキラは百代同じクラスになる事が出来た

そして百代はアキラとラブラブモードになっていた

百代「なあ、アキラ。」

アキラ「なんだ？百代。」

百代「今日さ、金曜日だろう、だからさ一緒に来て欲しい所があるんだけど良いか？」

アキラ「ああ、良いけど何処に行くんだ？」

百代「ふふ、それは後からのお楽しみだ。」と微笑んだ。

その頃大和はというと

屋上に居た

授業中なのに

大和「真龍、今夜から始めようと思う。」と言った

真龍「何を始めるのです？」

大和「何をつて、ユートピアを売っている奴等をボコボコにする事だよ。」と笑顔で言った

真龍「遂にやるのですね。しかし、どうやって調べるのです？。」と聞いてきた

大和「ふふ、それは簡単だ。ユートピアが売っている所をインターネットで調べてみた。そして時間も大体分かった。夜の11時頃川神市が静まった時に奴等が現れる。この時間を利用して売っている奴等をボコボコにさせて、マロードは何処に居るか言ってもらう。」と言った

すると

真龍は気になっている事を言った

真龍「今日は金曜日ですよ？確か金曜集会があるのではないのですか？」と聞いてきた

大和「集会にはちゃんと出るさ。集会が終わった後にやるんだよ。」
真龍「そうですか。なら、良いですけど。」と言った

そして

下校時間になり

大和は何時ものように秘密基地に行った

すると

既に皆が着いていた

風間「遅いぞ、大和。」

大和「ああ、すまないな。、今日は何をするの？」と言った

すると

百代「皆に言っておきたい事があるんだ。良いか？」と言った

風間「何です？百先輩。」

百代「アキラを風間ファミリーの一員にしたいんだけど、どうだ？」
と言った

京「百先輩、それは何故？、アキラの事が好きだから？」と言った

百代「それもあるんだけど、アキラが居ると楽しそうだし。なあ、
良いだろう？」と言った

風間「まあ、俺もあいつが入ると面白くなると思うから賛成だな。」

岳人「俺も賛成。」と男性&女性が全員賛成した

勿論大和も

百代「皆有難う。じゃあ、アキラ入って来て良いぞ。」と言った
すると

入り口のドアからアキラが入って来た

アキラ「皆有難う。今日からファミリー一員だけどよろしくね。」
と笑顔で言った

皆はアキラと仲が良かった

だが大和は複雑の思いだった

自分が愛した百代を奪った張本人であるアキラが風間ファミリーに居る事に、

百代はアキラとイチャイチャしていた

大和は我慢できず立ち上がった

風間「ん？どうした大和。」

大和「、、、悪いけど、急用を思い出した。俺帰るわ。」と荷物を持って去って行った

京「待つて！急用って何？」と京はその後を追おうとしたが既に大和の姿が無かった

京「大和？」と外に行ったが大和の気配がもう無かった

京が部屋に戻って来た

風間「大和は？」

京「もう居なかった。気配すら感じなかった。」と言ってソファーに座った

アキラ「あの、大和君でどういう人なのですか？」とアキラが聞いてきた

風間「大和はな、風間ファミリーの軍師役なんだ。誰よりも優しい奴なんだ。そして、百先輩の舎弟だ。」

アキラ「そうなんですか。初めて知りました。」と言った

そして皆アキラと一緒に色んな遊びをした

もうこの時間で既に10時半だった

風間「あ！もう10時半だぜ。そろそろ帰るか。」と言って皆解散した

その頃大和はというと

黒い服装を着けて顔は仮面で隠していた

真龍「大和、やはり辛かったのですね？あの百代があのアキラとイチャイチャしている場面を見ると。」と言った

そう

大和は逃げて来たのだ

百代とアキラがイチャイチャしている秘密基地から

大和「まあな。さて、そろそろ11時頃になる。ユートピアを売っている所に行くか。」と言って空中浮遊を行い売っている所に行った

そして場所に来た

夜の川神市

誰一人として歩いていなかった

大和は暫く歩いていると

????「へい、その仮面を付けた君。ちょっと良いかい？」と言った

大和「何だ？」と近寄った

男性A「今日は良いのが入って来たんだぜ。」

大和「ほう？その良い物とはなんだ？」と言った

男性A「それはな、ユートピアだぜ。これを飲むとイライラもストレスも無くなる薬だぜ、どうだ？買ってみたいか？」と言った

大和「もし、断ると言ったら？」

男性A「断るなら無理矢理でも買わすぜ。」と指を鳴らした

すると

男性30人が現れた

大和「ふん！たったのこれだけで俺に勝つと思っているのか？俺を舐めているのか？」と言った

すると

男性A「何だと！たったの一人で30人相手出来るのか！」

大和「ああ、出来る。」と言い戦闘態勢に入った

男性「A「良い度胸だ！お前らかかれ〜〜！！！！！」と30人全員その男に向かって襲った

大和は微笑みながら相手を半殺しにして行つた

僅か0、0000001秒という時間で30人を半殺しにした

30人全員重傷だった

両腕両足が変な方向になっていた

そして

大和はユートピアを売っている奴の方に行つた

男A「ひ、ひiiiiiiii！く、来るな~~~~！」と思いつきり怯えていた

大和「貴様に聞きたい事がある。俺の質問に答えれば体の保証はする。だが答えなければ奴等と同じ事になる、良いな？」と言つた

男性A「分かつた。何でも言うから。」と怯えながら言つた

大和「ユートピアという薬はマロードから手に入れたものだな？」

男性A「は、はい！そ、そうです！」

大和「マロードは本名じゃないな？本名はなんて言うんだ？」と殺気を出しながら言つた

だが

男性「それは知らない。」だった

大和はぶち切れて刀を男性Aの首ギリギリに当てた

大和「知らないだと！本当の事を言え！死にたいのか！」と言った

男性A「ひ、ひいい！ほ、本当だ！本当に知らないんだ！そいつは仮面を付けて顔を隠している。だから素顔なんて見た事がない！本当だ！信じてくれ！」と言った

すると

真龍「大和、この男は本当に知らないようです。だからこの辺で終わらせましょう。」と真龍が言った

大和「分かった。おい！今回はこの辺にしておくが今度売ったらその時は命が無いと思え！そして、何故こうなったのか警察の人達に全てを話せ！良いな！」と殺気を出しながら去って行った

男性Aはその場で失神してしまったのだ

原因は大和の殺気だった

大和の殺気は本当に恐ろしいのだ

どんな人間でも殺気だけで失神してしまうほどである

大和は今日はこの位にして島津寮へ瞬間移動しようとした

すると

真龍「大和、ちょっと良いですか？」と真龍が言った

大和は瞬間移動を止めて真龍の言葉に耳を傾けた

大和「どうした真龍？」

真龍「30人の男の中に水産省大臣の息子が居ました。」と言った

大和「へえ、よく知っているな。」

真龍「私の眼は何でもお見通しです。」

大和「そうか。まさか水産省大臣の息子が居たなんてな。明日になると国会が混乱するだろうな。」

真龍「ええ。そして水産省大臣は辞任さをするのがもう見えていますね。」

大和「ああ、そうだな。」と笑いながら島津寮へと瞬間移動したのだった

大和が自分の寝室に瞬間移動した

すると

流石に京の姿が見えない

大和「よし！今回は京は居ないな。これでぐっすり眠れるな。」と黒い服を消して寝間着に着換えて眠りに就いたのであった

悪夢

翌日

大和が目を覚ました

すると

京「大和く、おはよう。」とキスをしようとしてきた

大和はそれを回避した

大和「京、おはよう。いきなりキスをしてくるな。」と言って立ち上がり朝食を食べに行った

下に行くとき、大和が食事の準備をしていた

大和「あ！おはようございます大和さん。」と笑顔で言った

大和「ああ、おはよう。今日も食事当番かい？」

大和「はい！」

大和「それは良かった。まゆうちのご飯は美味しいからね。」とまゆうちを褒めた

大和「大和さん、そう言ってくれると嬉しいです。」と感謝した

そして

食事をとりながらテレビを見ていた

すると

アナウンサー「次のニュースです、昨日川神市商店街で地面に30人程の男性が地面に倒れて居るのをパトロール中の警察官が見つけた。救急車に運ばれましたが30人の男性は両腕両足の骨を折られ重傷です。更に重傷の中に水産省大臣の息子が入っていました。そして唯一無傷だった男性に何が起きたか事情聞いてみた所、重大な事が分かりました。実はその30人は違法な薬であるユートピアという薬を売っていました。そして水産省大臣は何故息子までユートピアを売っているんだ！と責められ今日辞表を提出しました。そして、無傷だった男性をその場で逮捕しました。繰り返します。」とアナウンサーが言った

風間ファミリーは食事を取りながらそれを見ていた

岳人「両腕両足を骨折させるなんて恐ろしいな。」

風間「ああ、そうだな。だが、ユートピアを売っていた奴等も悪い。」

京「でも、あそこまでやる必要あったのかな？」

クリス「だが、悪い奴は少し懲らしめた方が良い。」と言っていた

大和「（ふん、水産省大臣も可哀想だな。あんなに責められて。だが仕方がない自分の息子があんな事したんだからな。）」と思っていた

そして

食事が終わり

今日は土曜日なので学校はお休みだった

大和は寮に居るだけではなく少し散歩でも行こうかなと思い外出した

その頃

川神院はというと

百代「アキラ〜！おはよう！」とアキラの部屋に来た

アキラ「百代か。ああ、おはよう。」と立ち上がった

百代「暇だからさ、今日外に行かないか？」

アキラ「外か？まあ良いぜ。で場所は決まっているのか？」と聞いてみた

だが

百代「いや、決まって無い。」だった

アキラ「じゃあ、俺が決めて良いか？」と言った

百代「ああ、良いぞ。」と言いながら横になっているアキラに抱きついた

百代「ふふ、良い匂いだ。」と頬擦りをした

アキラ「さて、朝食を食べに行こうか。」と立って食卓の方に向かった

そして皆に挨拶をした

アキラ「みなさん、おはようございます！」と元気よく言った

一子「あ！おはよう、お兄様、お姉様。もう、食事の準備が出来ているよ。」と言った

アキラ「有難う。おお！今日も美味しそうな食事だな。」
百代「ああ、美味しそうだ。」と言って食事を食べた

そして

何時ものようにテレビを見ていた

すると川神院にもあのニュースが流れてきた

あの事件の事

鉄心「30人の男性を容赦なく両腕両足を骨折させるなんて惨い
う。」

ルー「ええ、しかもその中に水産省大臣の息子まで含まれていて水産省大臣は辞任を出した。確かに妥当ですが骨折はやり過ぎですね。」と言った

すると

アキラ「、、あの〴〵百代と一緒に今日出かけて良いですか？」と言
って来た

鉄心「構わないが、何処に行くんだ？」

アキラ「何処に行くかはまだ決めていませんが。」

鉄心「分かった。じゃが、夜遅く帰ってくるのなら連絡して来い。良いな？」

アキラ「はい、じゃあ行つてきます。」と言つて二人は何処かに消えて行つた

百代「それで何処に行くんだ？」と言つた

アキラ「そうだな、七浜の遊園地にでも行つてみるか？」

百代「ああ、行こう。」とアキラと手を繋ぎながら七浜の遊園地に行った

そして電車で30分位で着く事が出来た

百代「まずどれに乗るんだ？」

アキラ「そうだな、観覧車なんてどうだ？」と言つた

百代「観覧車つてまさかエロイ事をするんじゃないだろうな？」

アキラ「はは、そうかもな。」

百代「まったく冗談なのか本気なのか分からないな。」と言つて観覧車に乗つた

その時だつた

大和も七浜の遊園地に来たのだ

何故なら

暇潰しに百代とデートした所を思い出して来たのだ

大和「此処が姉さんとデートした所なんだぜ。」
真龍「そうですね？」と何かを察知した

大和「どうした？真龍。」

真龍「大和、この遊園地に百代とアキラが来ています。恐らくあの観覧車に居ます。」と言った

大和「まさか、デートか？」

真龍「恐らく。」と言った

暫く経って観覧車が一周回るまで待っていた

そして1週回った後どんどん客が降りてきた

その中に百代とアキラも居た

大和「あれは姉さんとアキラさん、これから何処に行くんだろう？
着いて行ってみるか。」と言って二人の後を追った（気配を消している）

そして着いたのは船だった

そう自分と百代がデートの日この船に乗ろうとしたが雨で中止にな
ってしまったやつだ。

だが今日は晴れている

大和は百代達が乗る船に自分も乗った

大和は二人の後ろに椅子で座わり二人の言葉に耳を傾けた

アキラ「これから何処に行く？百代。」

百代「そうだな、お前の好きな所で良いぞ。」

アキラ「じゃあ、食事に行くか？お勧めの場所は知っているから大丈夫だ。」

百代「そうか、期待しているぞ。」と手を握りながら言った

大和「なんであいつらイチヤイチヤしているんだよ。しかも俺とデートした場所だぞ。」と嫉妬心&アキラに対しての憎しみ心が強くなった

そして船から降りて食事を食べに行つた

勿論大和も二人の後を追う

二人が着いた所は大和と一緒に来た店だった

アキラ「此処だぜ。修行している時此処でよく食べてたんだ。さあ、入ろうぜ。」

百代「あ、ああ。」と言つて入つて行つた

大和はお金が無いので中には入れなかった

大和「くそくそ！俺の姉さんに何をする気なんだろう。ああくそくそ！気になるくそくそ！」と言つた

その頃二人は元気よく食べていた

それから20分後二人は出て来た

そして二人は帰って行った

大和「もう、帰るのか。まあ、一応二人の後を追いますか。」と言
って気配を消しながら後を追った

だが

この時追わなければ良かったと後悔するとは思っていなかった

二人は駅とは違う方向に行っていた

大和「ん？？駅とは違う方向だな。何処に行く気なんだろう。」と
言いながら追った

追ってからの位が経っただろうか

もう既に夜になっていた

やっと二人があると事の前で動きを止めた

そこは誰でも知っている「ラブホテル」だった

そうあの店で次行く所を決めていたのだ

そして百代もそれを受け入れて来たのだ

アキラ「さ、さ、さあ、入るぞ。」と緊張しながら言った

百代「ああ。」と言って二人はラブホテルに入って行った

大和は茫然していた

二人はああいう関係ではないと信じていたからなのだ

だがやはり諦めようとしなかった

大和「よし！確認してみよう。」と黒い服装を着て中に入って行った

この黒い服は気配&姿を完全に消す事が可能で誰も見破る事は不可能である

大和は百代達の後を追って行った

大和「嘘だろ。姉さんがアキラとエツチする訳がない！そうだよな？真龍。」と問い詰めた

真龍「大和。貴方も気付いている筈です。此処に来るっていう事は性行為するという意味です。だから諦めましょう。諦める事も大切なのです。」と言った

だが

大和「そんな事信じないぞ！俺は姉さんが好きなんだ！だから俺は、。」と言った後アキラ達を見失ってしまったのだ

大和「あれ？真龍二人は何処の部屋に行ったんだ？」と言った

真龍「、、、224番号の部屋に入って行きました。」と言った

大和「此処か？よし！入るぞ！」と部屋の中を通り抜けて入って行った

だが信じられない光景を見てしまった

二人はエッチをしていた

百代「ああ、ああん！アキラ！もっと！もっとしてくれ！」と抱きあいながらエッチをしていた

アキラ百代！分かったぜ。」と二人のエッチシーンを最後まで見てしまったのだ

大和はショックが大き過ぎてもうどうでもいいと思いながら島津寮へと瞬間移動して行った

二人は幸せそうに微笑みながら抱きあっていた

その頃島津寮に瞬間移動した大和はというと大粒の涙を流していた

大和「ちくしょう！ちくしょう！何で、何であんな奴が、何であんな奴が姉さんとエッチなんてするんだよ！俺だっけじゃなかったのに！ひっく、何で、なんで」と涙を流していた

すると

真龍がこう言った

真龍「大和、これで分かりましたね。あの女はあのアキラという男

が好きなのです。もう、諦めてください。」と言った

大和「真龍、俺はどうすれば良い？俺はどうすれば良かったんだ！教えてくれ！」と叫んだ

すると

大和の目の前に光が現れた

光が止んだ後目の前に美女が現れた

髪は腰以上にある綺麗な銀色の髪

そして胸の方は姉であつた百代よりもあつて

顔も結構美しかった

大和「き、君は誰だ？」と言った

「????」「私は真龍です大和。」と言った

大和「真龍だと！おい！真龍聞こえるか！おい！」と頭の中で真龍に言ったが反応が無かった

真龍「この姿を見せるのは大和が初めてですね。この姿が私の姿なのです。大和、私が貴方を支えます。だから元気を出してください。」と大和にキスをした

大和は涙を流しながらキスを交わしたのだった

これがきっかけで大和の性格は360度変わる事になるうとは思っていなかったのだった

大和の憎しみ

月曜日になり

大和は目を覚ました

すると目の前に銀色の長髪をした美女が自分に抱きつきながら眠っていた

しかも全身全裸である

そう昨日あの悪夢を見た後大和は真龍に抱きあったのだ

真龍の告白からの告白

真龍「お前は気付いていないと思うが、私はお前の事が好きなんだぞ？ずっと百代、百代ってずっと嫉妬していた。でもこれでお前は私だけの物だぞ。そして人間になってるときはリインフォースと言ってくれ」と言って深く愛し合ったのだ

大和「そうか、昨日俺は真龍に抱かれたのか。」といった矢先だった

京「大和くく！おはよう！」とノックもせずに入ってきたのだ

大和「あ、まずい。」と言ったが遅かった

京「ねえ大和、早く起きないと学校に遅れるよ。」と布団を無理やり奪った

すると

知らない美女が大和に抱きあっていた

しかも全裸で

京「大和、誰この女。」と言った

すると

大和「この女性はリインフォースだ。おい、リインフォース起きろ。起きないとこのままじゃ遅刻する。」と言って体を揺さぶった

リインフォース
真龍「むにゃあ、ふわあ、あ、おはよう御座います大和。」

大和「ああ、おはよう、じゃなくて手を放してくれないか？学校に行かなきゃならないんだ。」と言った

リインフォース
真龍「あ、すいません。私とした事が。」と言って大和の体から手を離れた

そして

学校に行く準備を終了して登校した

だが京が煩かった

京「大和！リインフォースという女性って誰なの！教えて！」と言っている

大和「京、彼女は俺の大切な人だ。それだけだ。」と言っている

京「それだけじゃ分からないよ！」と言っている

すると

リインフォース

真龍「京さんて言いましたね。大和はに何でそんなに突っ掛かるのです？もしかして大和の事が好きなのですか？」と大和の隣に居た女性が言った

京「リインフォース！今すぐに、今すぐに大和を、大和を返しなさいよ！」と攻撃をしたが全て回避されていた

普通の人間が彼女に勝てる人間などこの世に居ないのだ

リインフォース

真龍「無駄です。貴方の攻撃が当たる訳無いでしょう。、それに貴方に貴方は大和の何を知っているのです？彼の痛みが貴方に分かるのですか？あなたなんかに分かる訳がない。好きな人が他人に抱かれてシヨックした気持ちなんてね！」と怒鳴った

大和「リインフォース、そこまでにしておけ。」と大和が止めた

リインフォース「大和、分かりました。でもこれだけは言っておきますよ。風間ファミリー達に彼の苦しみなんで分かる筈がない！それだけは覚えておいてください。」と言って大和の隣に行き歩いて行った

風間ファミリーは茫然としていた

大和の苦しみて何？

何が大和を苦しめた？

そういう言葉が頭の中から離れなかった

そして

河原の所で百代とアキラと一子と合流した

大和はアキラを完全に憎しみ心しか無いので挨拶もしなかった

アキラ「おゝい！大和、おはよう。」と肩に触れた

その瞬間思いつき振り払ったのだ

その手を

大和「この俺に触るな！！」とアキラに向けて最大の殺気を出した

アキラ「え？や、大和？どうしたんだよ、俺が何した？」と言って
近寄ろうとした瞬間隣に居る女性が突き飛ばし、アキラを尻餅させた

一子「ちょ、大丈夫？ちょっとアキラに何するのよ！それに大和！
アキラがちゃんと挨拶したのに何で挨拶しないのよ！」と怒鳴った

だが大和はその言葉を見殺して去って行った

一子「ちょっと聞いているの！大和！」と言ったが聞える筈もなかった

だがリインフォースはこう言った

リインフォース「何故大和が変わったか、わかりますか？」と聞いてみた

すると

一子「変わった事？それって何？」だった

リインフォース「ふふ、やはり何も知らないんですね。彼が変わった原因を作ったのは紛れもなくアキラと百代にあります。」と言った

一子「お姉様とお兄様に原因ですって！なんでそうなるのよ！」と言った

リインフォース「貴方だってこれを言った瞬間傷つきますよ、良いのですか？まあ、貴方が傷付こうがどうでも良いですので話します。何故土曜日デートに行った時、その日に帰らず日曜日の早朝に帰って来たかわかります？。」と言った

するとアキラと百代がビクつと体が動いた

一子「早朝に帰って来た理由？知らないわ。」と言った

リインフォース「実は、二人は学生が行ってはいけないラブホテルに行ったのですよ。」と信じられない事が返って来た

一子「嘘よ！お兄様がお姉様と一緒にラブホテルに行ったなんて嘘よ！！」と涙を流しながら言った

リインフォース「事実ですよ。なら聞いてみたらどうです？二人に

ね！」と二人を睨みながら言った

一子「嘘よね？彼女が言っている事は嘘ですよ？ねえ、嘘だよね？」と言った

だが現実には甘くなかった

アキラ「一子、彼女が言っている事は事実だ。俺は百代とラブホテルに行き性行為を行った」

一子「そ、そ、そんな！」とガツクリ膝を折った

リンフォース「これで分かったか？大和が変わった原因を作ったのはその二人です。」と殺気を出しながら言った

だが

一子「でも、何でラブホテルに行ったって分かったの？」と問い詰めた

リンフォース「だって大和その二人の後を追っていたもん。気配を消してね。」と言った

一子「気配を消しながら追った？お姉様は気配を見つけられる事が可能なのよ！」と自慢げに言った

だが

リンフォース「自慢げに言っていると思いますが、大和を甘く見ない方がいいですよ。気配を完全に消せるくらいなら大和だって出来るのですよ。百代とか言いましたね、もう大和に近づかないでく

ださい。正直、ウザいです。そして弟という契約は解除させて頂きますよ。」と言って大和の後を追って行った

風間ファミリーは少しの間動きが無くなった

すると

京が百代に言ってきた

京「何でラブホテルなんて行っただの？アキラ先輩、百先輩。」と言ってきた

アキラ「京」

京「大和は本当に百先輩を心から愛していたんだぞ！例え振られても愛していたんだぞ！百先輩に振られた後自分の部屋で泣いていたんだぞ！大和は本気で百先輩を心から愛していたんだぞ！それをお前が――！」と殴り掛かった

アキラ「つく――！」と地面に尻餅をした

京「大和を返してよ。あの頃の大和を返してよ！」と暴れたが師岡に止められた

モロ「京、その辺にしておきなよ。」と言った

京「モロ！離してよ！こいつは大和を変えたんだよ。」

モロ「確かにそうかもしれないけど、殴っただけで大和の性格が元に戻る訳無いだろう。」

京「そうだけど。」

モロ「確かに完全にアキラ先輩や百先輩が大和に恨まれても憎まれても仕方がないけどな。」と二人を見た

師岡「さて、そろそろ学校に行かないと遅刻するね。」と言って風間ファミリーは走って行った

学校に行き自分達のクラスに戻ると既に大和は自分のクラスに居た

だがあの女性が居なかった

モロ「あ！大和もう着いていたんだね？」

大和「モロか、まあね。」と言った

師岡「リインフォースさんから話を聞かせてもらったよ。アキラ先輩と百先輩がラブホテルに行ったんだね。そのせいで大和は性格が変わったんだね。」と言った

大和「もう、二人の話はするな。あの二人の名前も声すらも聞きたくない、正直言っただけだ。」とモロに言った

師岡「分かった、もうあの二人の事は言わないよ。」

大和「有難うな、モロ。」とお礼を言った

大和は別に全ての人間に冷たくはしないのだ

冷たくするのは百代を奪った本人大塚アキラや

自分を捨てた川神百代だけである

すると

一子が近づき大和に言った

一子「あ、あのね、朝あんなこと言ってごめんね。」と言ってきた

大和「ワン子、あんな事って？」

一子「だから、大和の苦しみも知らないのに怒鳴ったりして。」と謝った

大和「構わないよ。普通あんな事したら怒鳴るのは当たり前だよ。だからワン子が気にする必要は無い。」と言った

一子「大和、ありがとうね。」と笑顔で言った

大和「そういえば今日宿題してきたか？ワン子。」と言ってきた

一子「、、、え？宿題？、、して来なかった。」と言った時だった

大和「そう言うと思った。ほら、宿題の本。早く答えを写せ。」と宿題を見せた

一子「有難う大和！」と言って感謝して宿題を写した

その頃

リインフォースはというと

大和の体に戻っているのだ

リインフォース「大和、本当に一子さんには甘いんですね。」と言

ってきた

大和「仕方がないだろう。困っている者を見知らぬふりをする事はできない。」

リインフォース「まあ、大和が言うなら構いませんけど。そういえば大和、金曜集会には出るのですか？あのアキラや百代が居ますが。」と言った

すると

大和「いや、もう出ない。俺はあいつ等には憎しみ心しかない。これ以上傍に居る必要はないだろう。なに、俺が出なくてもあいつ等ならやっていけるさ。それより、早くマロードを見つけ出し逮捕させ、ドラゴン退治をするぞ。」

リインフォース「はい、分かりました。」と言った

この日がきつかけで大和は金曜集会で姿を見せる事は無かったのだ
った

新たな仲間 松永燕編

大和の性格が急変してから1カ月が経った

大和はあれから金曜集会には出なくなったり

風間ファミリーと一緒に登校する事もなくなっていた

だが大和が居なくなってから妙な事件が起きている

それは

ユートピアを売っている奴等を半死半生にさせているニースだ
けなのだ

毎日

これでざっと100人は越している

大和「ふわあぁ〜！眠いな。少し頑張りすぎたかな。」と言った

真龍^{ラインフォース}「大丈夫ですか？大和。今日はユートピアを売っている奴等を
退治するのは止めておきますか？」と言ってきた

大和「そういうわけには行かないだろう。ユートピアを飲まされた
奴等は全員死んでいるんだぞ！早くマロードが居るアジトに行かな
いといけないだろう。」

真龍^{ラインフォース}「確かにそうですが。」と言った時だった

大和「まあ、確かに一人だけでは確かに限界があるな。俺がやつつけている間、奴らの仲間は場所を変えている。真龍、川神学園に強い奴は居ないか？」と聞いてきた

真龍「ラインフォースそうですね、あ！そくだ！彼女達の力はどうですか？」と言ってきた

大和「彼女達の力って？」

真龍「ラインフォースまず、3年F組に居る松永燕さんや武士道プランで偉人達のクローンである

源義経さん、武蔵坊弁慶さん、そして戦闘が好きなステイシーさん、李 静初さん、そして榊原小雪さん、そして板垣辰子さんはどうでしょう？」と言った

大和「うーん。確かに彼女達の力は強力なんだけどね。でも、彼女達を巻き込んだら犯罪者扱いにされる。」

真龍「ラインフォースですがそうしなければユートピアを防ぐ事など出来ません。仲間を連れ、二手に分かれ退治しなければきりがありません。どうしますか？」と言った

大和「まあ、一応言っただけよ。俺と一緒に退治してくれないか？ってね。」

真龍「ラインフォースそうですね。では、急がば回れです。さあ、行きましょう！」と言った

大和「まずは松永燕先輩か。」と授業が終わった後彼女のクラスに来ていた

一応彼女とは仲が良いのだ

この話はまだ真龍が憑依していない話である

例えば校庭で落ち込んでいた時大和が声をかけて来たのだ

大和「あの〜？大丈夫ですか？具合でも悪いのですか？」と声をかけた

松永「え？あ、あはは！大丈夫具合悪くないよ。ただちよつとね。」と再び元気を失ってしまった

大和「俺は1年F組の直江大和といいます。落ち込んでいる訳を話してもらえませんか？少しでも力になりたい。」と言った

松永「大和君ね、私は2年F組の松永燕です。実はね、借金の事で元気が出て来ないんだ。」と言った

大和「借金ですか？えつと、幾ら位あるのです？」と言った

松永「えつと、3000万位。しかも明日中に返さなければ家を売られちゃうの。もう駄目だね、どう足掻いても明日中には返せないよ」と涙を流していた

大和「松永先輩、松永先輩俺が必ず明日までに3000万用意しましょうか？」と言ってきた

松永「大和君、気持ちは嬉しいけど遠慮しておくわ。後輩にこんなことする先輩なんて最低でしょ？」

大和「そんな事ありません！必ず明日までに貴方の家に持って行きます。えつと、松永先輩の家は、あれ？松永ってあの納豆を売っている店と同じ名前。もしかして、そこが先輩の家ですね？」と言っ

て去って行ったのだった

松永「ちょ！待って大和君！」と追おうとしたが足が速く追い付けなかった

大和はどうやって明日までに3000万を準備するということだったのーつしかない

だが失敗すれば命まで危うくなってしまうのだ

だが困っている彼女の為には仕方がなかった

大和は夜にある店に行った

そこは「カジノ」であった

そうカジノでお金を稼ごうと考えたのだ
(川神市では生徒でもカジノに行けます)

大和が得意としている遊び

それはポーカーだった

大和はディーラーの前に座った

ディーラー「お！お客さん来たね。ポーカーしに来たのかい？」と言った

大和「そうです。」

ディーラー「そうかい。じゃあ、俺に勝てるように頑張りな。」と

言ってポーカーをしていた

だが流石に大和でも苦戦している

ノーペアだらけだった

そして次失敗してしまったらもう後が無くなってしまった

大和は必死でやった

そして此处で一つの軌跡が起きた

今大和が持っているカードはA、K、Q、Jだった

これで10がでてくれればロイヤルストレートフラッシュでとんでもない金額になるのだ

ざっと3000万以上は稼ぐ事が出来る

大和は神に祈り最後のカードを引いた

結果は、、、10だった

見事にロイヤルストレートフラッシュを完成させたのだ

ディーラー「こちらはストレートです。（ふん、これで俺の勝ちだな。）」と思っていた

だが

大和「残念でした。此方はロイヤルストレートですよ。」とカードを見せてやった

ディーラー「な、な、なんだと〜〜！馬鹿な！この土壇場ですなんて！」とびっくりした

すると

周りに居た人たちも集まって来た

お客A「おいおい、どうしたんだ？」と言ってきた

ディーラー「それがこの少年ロイヤルストレートフラッシュを出したのです。」

お客A「な、何だと！」

女性A「嘘でしょ？あ、でも本当だ。ロイヤルストレートフラッシュになってる。凄い！」とザワザワしていた

大和「俺の勝ちですね。さあ、賞金をください。」と言った

ディーラー「分かりました。このお金は貴方様の物です。受け取ってください！」とざっと2億位の金額を差し出した

大和「さて、これで松永先輩の所に行って助ける事が出来るぞ！」と言って外を出ると既にもう朝方だった

大和「しまった！急がなければ間に合わないぞ！」と言って松永納豆屋まで走って行った

その頃

松永納豆屋はというと

トントンと店のドアを叩いて借金取りが現れたのだ

借金取りA「おい！借金取りに来たぜ！さあ、約束の3000万を渡しな！」と言ってきた

松永店長「あ、明日までに準備しますのでどうか、どうかお許しを！」と言ったが駄目だった

借金取りB「駄目だ！ならこの店を売るぞ！」と脅した

燕はもう駄目だと思っていた

その時

正義のヒーローが現れた

大和「待ってください！」と言った

借金取りA「誰だ！」

大和「俺の名前は直江大和といいます。俺が3000万を渡します。ですのでこの家は売らないでください！」と言った

借金取りB「ほう？お前が払うのか？3000万を？じゃあ、よこしな。」と言った

大和「ほら、此处にある。」と銀色のケースに3000万がありそれを渡した

借金取りA「よし、今から数えるから待っている。」と言った

そして数えた後

借金取りA「確かに3000万だ。確かに受け取ったぜ。おい、爺さん、これに懲りて借金なんてすんなよ！」と去って行った

大和「何とか間に合ったね。」と言った

松永燕「大和君、何で助けたの？」と言った

大和「言っただけでしょう。必ず明日までに準備するって。それと、此処に1億7000万あります。貴方方に差し上げますので店を新しくしたりリフォームしたりしてください。あ！そうそう！借金の3000万は返さなくて良いです。」と言って走って去って行ったのだった

松永燕「あ！ちょ、ちょっと待って！」と言ったがもうその場に居なかった

店長「燕、彼は一体？」

燕「父さん、彼は2年f組の直江大和君ていうの。（ああ、大和君って素敵な人ね。）」と既に恋心を持っていた

店長「そうか、じゃあ、このお金はこの店を立派にさせよう。それが幸せだろうな。」と言って納豆屋を大きくさせた

そして1年後

松永納豆屋は世界から美味しいと言われ松永屋を知らない者など誰一人居ないほど超有名になった

勿論

毎日黒字になっていた

直江大和が来てもらえなければ今の納豆屋は無かったと本気で大和に心から感謝していた

それがツバメとの初めての出会いだった

大和は3年F組に行った

そして

授業が終わると3年生の生徒にこう言った

大和「すいません、直江大和といいますが、松永先輩は居ますか？」
と言った

3年生徒A「え？燕か？ああ、居るぜ。ちょっと待てな。」
と言つて燕に言った

3年生徒「おゝい、燕、面会だぞ。男の。」と大きな声で言った

燕「え？男の」と言った時入口の前に想い人である直江大和の姿があった

燕「ああ！大和君！ちょ、ちょっと待ってて！」と教科書を引出しに急いでしまつて会いに行つた

燕「お待たせ！どうしたの？」

大和「此処じゃちよつとまずい。屋上に行こう。」と言つて屋上に行つた

二人は屋上に向かつた

燕「どうしたの？大和君。」と言つた

すると

大和はとんでもない事を言つた

大和「松永先輩、今から1カ月前大怪我を負っているニユースを良くやりますよね？」

松永「え？うん、するね。それがどうしたの？」

大和「重傷を負わした犯人は俺だよ。」と言つた

松永「そんな！嘘よね、大和君、大和君がそんな事する訳が、」

大和「嘘じゃないよ。正真正銘俺がやった。」と言つた

松永「理由は、理由位教えて。」と言つた

大和「それはユートピアを売っているからだ。ユートピアという薬を飲まされた人間はどんどん死んでいる。だからそれを防ぐために奴等を倒している。」と言つた

松永「そうだったんだ。でも大和君は正しいね。あいつらを倒して行ってユートピアの拡大を防いでいるんだから。でも、何で私にこの話を？」と言った

大和「松永先輩、俺の仲間になってくれないか？ たったの一人じゃ限界がある。」と言った

すると

松永「大和君、分かったわ。私は大和君と一緒に戦うよ。戦ってあいつ等を倒そう！」と言った

大和「有難う、松永先輩。」

松永「私の事は燕先輩で良いよ、よろしくね。」と言った

これで大和の仲間に燕が加わった

新たな仲間 源義経編その1

直江大和は川神四天王の一人である

松永燕を仲間にして下校時間になり大和は帰って行った

今はユートピアを売っている場所が特定できないので今回は出勤していない

大和「うーん、さてと、源義経さんはどうやって仲間にするかな。」
と思っていた

すると

笛を吹きながら歩いている女性が現れた

そうそれが源義経だった

大和「噂をすれば来ましたか。あのー、すみません。ちょっと良いですか？」と声をかけた

義経「はい、何でしょう。」と笛を一時止め大和に注目した

大和「綺麗な音色ですね。」

義経「有難うございます。、、そういえば貴方のお名前は何といのです？」と言った

大和「これは失礼しました。俺の名前は直江大和です。川神学園の2年F組です。」と言った

義経「私の名は源義経です。義経と言ってくれ。そして私は川神学園の2年S組に居ます」と言った

大和「では、義経さん。ちょっと話でも良いでしょうか？」

義経「ああ、構わないぞ。」と言って河原の方まで歩いて行った

そして

河原に行くと夕日が綺麗だった

義経「大和は、何時も此処に来るのか？」と聞いてみた

大和「え？まあね、辛くなったり元気を失ったら此処に来て夕日を見ているんだ。」

義経「そうか。、、そういえば大和は笛を吹く事が出来るか？」と聞いてみた

大和「笛ですか？まあ、上手い方だけど。それがどうかしたのかい？」

義経「じゃあ、少し吹いてくれぬか？」と自分の笛を突き出した

大和「良いの？」

義経「ああ。」と笑顔で言った

大和「（これって間接キスになっちゃうんじゃないのか？まあ、彼女が良いのなら良いか。）。」と言って笛を吹いた

大和の音色はとても綺麗だった

歩いている人すらその歌だけで見惚れるほどだった

大和「どう、かな？」と言った

義経「凄いな、義経よりも上手いじゃないか。あの、大和君、いや、師匠って言わせて頂けぬか！」と言ってきた

大和「はあ？し、師匠？？そ、そんな師匠だなんて悪いよ、大和で良いよ。」

義経「いえ、是非言わせてください！私はもつと笛を綺麗に吹きたいんだ。だから、た、頼む！師匠って言わせてくれないか？」と言った

大和「はあ、まあ良いけど。でも、何でそんなに笛を上手く吹きたいんだい？」と言った

すると

義経「師匠も知っていると思うけど、あと2ヶ月後川神院で七夕祭りがあるでしょう？」

大和「ええ、ありますね。」

義経「その祭りで義経は笛で音楽を聴かせなきゃいけない。もし、失敗でもしたら皆に笑われてしまいます。だから師匠。私に音楽を教えてください！」と言った

大和「分かった、教えてあげよう。では、修行するのは明日からおひるが終わった後屋上に来てね。」と去って行ったのだった

義経「はい、分かりました師匠！」と言ってスキップしながら帰っ

て行った

大和は島津寮に戻って行った

すると

京「お帰り大和。」と言った

大和「京が、ただいま。」と言った後すぐに寝室に行こうとした
だが

京「大和、何で金曜集会に出なくなったの？」と言ってきた

大和は返事をせずどんどん歩いて行った

京「ねえ、大和ったら！」と言った

すると

大和が返事をした

大和「リインフォースが言った筈だ。来なくなった原因を作ったのはアキラだな。俺は2度と集会には出ない。そっちの方が風間ファミリーや俺にとって幸せだ。」と言って寝室に入ったのだった

京「百先輩やアキラ先輩が性行為したからなの？じゃあ、風間ファミリーの存在価値ってあるの？大和が居ない風間ファミリーに存在価値なんてあるの？」と言った

大和「今回はユートピアを売っている奴等の気配はまったく見られない。このまま平和だったら良いんだけどな。」と言った

すると

ラインフォース

真龍「大和、まだ平和になるのは早過ぎます。マロードだって捕まえていませんしドラゴン退治だってあるのですよ。忘れないでくださいね。」と真龍が言ってきた

大和「分かっている。まったくマロードは一体誰なんだろうな。」
と言って眠りに就いたのだった

翌日

大和は立ち上がるつもりだったが京が居た

京「おはよう、大和。」とキスをしようとしたので回避した

京「惜しい。」と言った

大和「全然惜しくないから！京、いい加減に眠っている俺にキスをするのは。」と言った

大和は遅刻するので話を終了させて朝食を取って登校したのだったが

大和は風間ファミリーとは一緒に登校する事は無くなった
更に百代やアキラにも顔を見せなくなっていた

アキラは大和に挨拶しても大和は殺気を出しながら挨拶してくるな
つと言ってくる程嫌いになって行ったのだ

そして

大和は本を見ている時だった

川神四天王の一人である松永燕が現れた

燕「おはよう、大和君。」と隣に来て挨拶をした

すると

大和「燕先輩、ああ、おはようございます。」と挨拶をした

京「なに、あの女。私の大和にイチャイチャと！」と嫉妬の炎を燃
やしていた

すると

その時だった

????「師匠くく！」と言ってきた美少女が大和の前に現れた

大和「義経じゃないですか。どうしたのです？」と言った

義経「義経も一緒に歩いて良いでしょうか！」と笑顔で言った

大和「あ、うん良いよ。」と隣に来させた

すると

燕「大和君、誰なの？この女性。なんで大和君を師匠っていうの？」
とかなり嫉妬している燕が言った

大和「この人は2年S組の源義経だよ。そして師匠って言っている訳はね、、、」と全てを話した

燕「へえ、2ヶ月後の七夕祭りのイベントで笛を吹いてくれるんだ。そして失敗しないように大和君に教わっているんだ。」

義経「はい、師匠に教わってればもうばっちり大丈夫になりますから。師匠、今日からよろしくお願いしますね。」と笑顔で抱きついてきた

燕「ああ~~~~~！こら~~~~！うつ、私だって！」と二人は大和に抱きついた

燕「大和君。」

義経「師匠。」と頬擦りしながら歩いて行った

それを見た風間ファミリィは茫然としていた

あの百代大好きっ子であった直江大和が他の女性とハーレムだった事に

岳人「つけ！何で大和ばかり美人で巨乳の女性が集まるんだよ。クウ~~~~！チックショ~~~~！俺だってハーレムしたいぜ！」と悔しがっていた

そして無事川神学園に到着した

大和「じゃあ、お昼休みに屋上で待っているからね、義経。」

義経「はい、よろしくお願いいたします。」と言って自分のクラスに行ったのだった

大和は自分のクラスに戻ると

福本「おゝい、大和。」とヨンパチが近づいてきた

大和「なんだ、ヨンパチか。どうした？俺に何か用か？」とヨンパチを見た

福本「聞いたぜ。お前があんの3年F組の松永燕先輩と2年S組の源義経とイチヤイチヤしてたとはな。」と聞いてきた

大和「イチヤイチヤって、まあ、そうだな。それがどうかしたのか？」

福本「ふゝん、じゃあ、百先輩の事はもう良いんだな？」と言った
すると

大和はとんでもない事を言った

大和「別にどうでも良い。、、、ていうか恋愛感情は既に消えている。姉さんはアキラの事が好きなんだよ、初めからね。俺とのデートは所詮アキラの面影を見てただけだったんだ。もう、俺は風間フアミリーから抜けているし、もう姉さんに会いたくなって思わなくなった。だから、もう姉さんとはそういう関係ではない。」と言った

この言葉を言った時

部屋の温度がいきなり寒くなった

あの百代の事が好きだった人が言う台詞なのか

皆恐ろしくなったのだ

その時だった

京「ね、ねえ？大和。」

大和「なんだ京？」と言った

京「話変わるけど、義経さんとさつき屋上で何かするって言ってたよね。何をするの？」と興味津々で言った

大和「ああ、笛の練習だよ。2ヶ月後川神院で七夕祭りがあるだろう。その祭りで義経は笛で演奏しなくちゃいけなくなったんだよ。そして俺は笛の教師をやらせてもらっているんだ。」と言った

すると

一子「へえ、大和って笛とか出来るんだ。」とストレッチしている
ワンコが言った

大和「まあね。あ、そろそろ先生が来るぞ。ワン子、トレーニンググッズを片付けて。」

一子「え？うん、分かったわ、有難うね大和。」とトレーニンググ

ッズを片付けて行った時だった

ガラガラッ

梅子「皆おはよう、では、出席確認をする。」と言って主席確認を取った

その頃3年F組はというと既に授業をしていた

教科は数学だった

燕は数学はまあまあ得意の方だ

すると

燕が何かを妄想しているのか顔を真っ赤にしたり体をクネクネとしている

そして

教師「では、此処の問題を燕、お前がやってみろ。」と言ったが返事が無い

だが

燕「大和君と一緒にデートしたいなあ。そして、デートした後「燕先輩が好きです。付き合ってください。」なあぐんて言われたら、どうしよう。超嬉しくなって気絶しちゃいそう。」と言っていた
すると

教師「ころゝゝ！燕！聞いているか！」と耳元で言った

燕「あ！す、すみません。その問題をすれば良いのですね？はいはい」と。」「と言つて問題を解いた

だが解いた後直江大和の姿をチョークで描いた

教師「おい！燕よ。何を描いている？」と聞いてきた

燕「え？先生知らないんですか？2年F組の直江大和君ですよ。かつこ良くて、優しくて頭脳も良いし彼氏にしたい？1の男性でゝす！イエゝイ！」とブイサインをしたが直ぐに消された

燕「あゝゝ！何をするのです！」

教師「そんなに好きなら休憩中に会つて行つて来い！、今は授業中だ。」と怒られた

燕「はい、分かりました。まあ、チョークで描くより本人と会つた方が良いでしょうね。」と言つて席に座つた

そして休憩中の時直ぐに行こうとしたが百代に止められた

百代「待て燕。」

燕「何ですか？百代ちゃん。」と言つて百代の方に行つた

百代「此处じゃ駄目だな。屋上に行くぞ。」と言つて屋上に向かつた

屋上に着き

百代は気になる事を言った

燕「話って何？」と言った

百代「お前は大和の事が好きなのか？」と聞いてきた

燕「大和君の事？うん！大好きだよ。勿論、友達としてではなくて一人の男性として好きよ。それがどうかしたの？」と言った

百代「、い、いや、別に。さあ、戻るぞ、クラスに。」と言った時だった

燕「百代ちゃんて何で大和君を振ったの？」と言ってきた

百代「何でその事を知っている？」

燕「噂よ。百代ちゃんが大和君を振ったって噂されているの。っで何で振ったの？彼は誰よりも優しい人なのに。」と言った

百代「それは、恋とは違うような気がしたんだ。別に嫌いじゃない、でも私は、。」と何かを言おうとした時だった

燕「私の好みは雄々しい男だ。でしょ？」と言ってきた

そう百代の好みは雄々しい男なのだ

自分と勝負して自分に勝てるような男である

百代「燕。私は、。」

燕「貴方は何時もそうよね、強い人が好きだって。どうせ大塚アキ

ラさんを好きになった理由は強い人だからでしょ？貴方には失望したわ。所詮、最強と言われている貴方はそれしか価値が無いのね。、それに大塚アキラさんより大和君の方が強いわ。まあ、学校ではわざと弱い人間を演技しているけど。例えばその力を見ても貴方には絶対に渡さないから。貴方はアキラさんがお似合いよ。じゃあね。」
と言って去って行った

百代はただ茫然としていた

自分は強い人しか好きになれると言われて凄く落ち込んでしまった
百代「、私は、そのつもりでアキラを好きになったんじゃないのに。」
と膝を着きながら涙を流したのだった

新たな仲間 源義経編その2

松永燕は休憩中に大和に会う為F組に行った

燕「大和君、居る？」と言った

すると

大和「燕先輩じゃないですか！どうしたのです。」

燕「少し話がしたいなあと思ってね。」

大和「分かった。とりあえず屋上に向かおう。」と言って屋上に向かった

大和「どうかしたのです？燕先輩。」と言った

燕「大和君、ユートピアはどうなったの？」と聞いてみた

大和「まだ情報が集まらないですね。今日の帰りでも情報を集めようと思いますが燕先輩はどうします？」と言った

燕「是非、行かせて！ユートピアを売っている奴等を倒して川神市に平和を取り戻しましょう。」と笑顔で言った

大和「じゃあ、帰りに入り口の門で。」

燕「うん。」と言って自分のクラスに戻って行った

そして

お昼になった

大和は弁当を取りだした時だった

義経「師匠、師匠いますか？」と2年S組の源義経が現れた

大和「義経か。あ、そうだった笛を練習する約束してたっけ。」

義経「師匠、さあ教えてください。」と言ってきた

大和「わ、分かったから引つ張らないでくれ。」と弁当を持って屋上に行った

屋上に来て義経は練習をした

義経「どうでしょう？師匠。」と言った

大和「中々上手いけど息遣いがまだまだだね。でも、息遣いを上手くすれば完璧になるね。。。じゃあ、見本見せるからちよつと貸して。」と言って義経の笛を借りて吹いてみた

義経が吹く笛と大和が吹く笛の音色は似ているが

義経は所々息遣いが出来ず変な音を出してしまうのだ

大和「どうかな？こうやって息遣いをすれば良いんだよ。」

義経「はい、分かりました。では、やってみます！」と言って再び

大和が教えてくれた通りに吹いてみた

お昼休みが終わる時には

もう大和と同じ位まで上手く吹く事が出来た

大和「うん！もう大丈夫だね。僕が教えるのは此処までだよ。これで完璧。」と頭を撫で撫でした

義経「あ、有難うございました！」とお礼を言った

大和は気になる事を言った

大和「義経って強いんでしょう？あの九鬼家が鍛えた者だから。」と言った

義経「え？い、いや、私はあんまり強くないですよ。」と照れているがその体からは強いオーラが出ていた

大和「少し僕と勝負してくれないかい？」と頼んでみた

義経「師匠、は、はい師匠がそこまで言うのなら。」と言って自分の刀「薄緑」を構えた

大和は何処からか出したのかいつの間にか手に長刀「村雨」が握られていた

大和「一応、氣にの力を見せて頂く為に防御だけにしておくよ。さあ、かかって来て。」と言った

義経「ではいきます！はああああ！」っと大和に攻撃をしてきた

刀の技の威力

刀のスピード

全てにおいて川神四天王に居る黛由紀江を遥かに上回っていた

大和は全てを防御したり回避したりした

義経「はあ、はあ、はあ。」と息遣いを激しくなっていた

大和「流石に強いね。ねえ、義経。僕の仲間になってくれないか？」
と言ってきた

義経「はあ、はあ、な、仲間ですか？、構いませんが何故ですか？
そのような力を持っていないから。」と言った

すると

大和「義経、1カ月前からユートピアを売っている奴等が半殺しに
されているって知っているよね？」

義経「え？は、はい、我が九鬼家でも問題になっておりますね。そ
れがどうかしたのですか？」と言った

大和は全てを暴露した

大和「半殺しにした犯人は僕だよ。」と言った

義経「し、師匠がですか！何故！」

大和「ユートピアを無理矢理飲まされている人はどんどんと死んで

行っている。それを阻止するためにやっている。義経、仲間になつてくれないか？君の力が必要だ。」と言った

すると

義経「、分かりました。確かにこのままでは川神市は死の町になつてしまいますので師匠の仲間になりましょう。」

大和「有難う、義経。」と抱き合いながら言った

義経「私達の力でユートピアという存在を消しましょう。」と大和に言つて抱き返したのだった

これで大和の仲間に松永燕、源義経が仲間になった

新たな仲間 武蔵坊弁慶編 1

大和は

松永燕と源義経を仲間にしてから1日が経った

大和はインターネットでユートピアという違法な薬を売っていないかどうかを調べていた

すると

運が良く明日の夜8時に

マロードという人間と集会があるという情報があつた

場所は今は何も動いていない機械の工場だった

これは行くしかないと思い松永燕と源義経をお昼休みに屋上に来させた

燕「どうしたの？大和君。」

義経「師匠？何かあつたのですか？」と言った

大和「明日の夜8時にマロードという人間がユートピアを売るという情報が出た。そして場所は今は何も動いていない機械工場だよ。数までは分からないけど。」と言った

燕「遂に明日なんだね、大和君。明日マロードというユートピアを

売っているボスを捕まえる日は。」

大和「うん。でも、罨の可能性もあるんだ。」

義経「罨ですか？何故です？」と聞いてきた。

大和「だって、インターネットにわざと場所を教えるなんて何かあると思う。もしかすると、俺達の戦闘力のデータを取る為にわざと来させてる可能性もある。でも、例え罨でも行くしかない。先輩達はどう思いますか？」と言った

すると

燕「勿論、行くわ！例え罨でも行くしかない！それしかない。」

義経「私もそう思います。」と言った

大和「分かった。明日の夜7時に河原で集合にしよう。」

燕「分かりました。」

義経「うん、分かった。」と言ってお昼休みを終えた

そして下校時間になった

大和は鞆を持って島津寮へと帰ろうとした

すると

京「大和、一緒に帰ろう。」と言ってきた

大和「京か。ああ、良いぜ。」と言って一緒に下校した

一緒に帰ると色々楽しい事とか言った

京は例のあの事を言った

京「ねえ、大和。」

大和「何だ？京。」

京「今でも、その、、あの二人を憎んでる？」

大和「あの二人とはなんだ？」

京「百先輩とアキラ先輩の事だけど。」と言った

すると

大和「憎んでいるさ。特にアキラにはな。なにせ俺の幸せを奪ったんだからな！正直口も聞きたくないね。」と言った

京「そうなんだ。」と言ってこの話を終えた

丁度

島津寮に戻って来た時に話を終えた

大和は

自分の部屋に戻ると何かを造っているのか作業をしていた

真龍「あの、何を造っているのですか？」と言った

大和「燕先輩と義経先輩の武器と防具だよ。」と言って造って行った
勿論

結界を張っているので外に音が聞こえる事はない

（武器を造る方法は真龍が憑依した事により可能になっている）

そして

僅か5分で完成した

まず武器は松永燕専用の武器

対化物戦闘用13mm拳銃「ジャッカル」

全長39cm

重量1kg（松永用なので軽くした）

装弾数6発

454カスール カスタムオートマチック

全長約39cm、

重量 1 k g。 (松永専用なので軽くしている)

装弾発 6 発

形状はジャッカルとほぼ同じ

この二つの銃は重量が軽くなっているが威力は一撃で戦車やいかなる戦闘機を破壊する事が可能

一応威力を弱めて気絶させる事も出来る。

弾は人間界の世界では売っておらず大和しか造ることが不可能である為球切れになってしまった場合は大和に造ってもらうしか出来ないのが欠点である

そして

防具は

シールドエンブレムという特殊なアクセサリーを造った

これはいかなる攻撃も装着者を守ってくれる品物である

それだけではない。

これを装備しているだけだが瞬間移動や空中浮遊&空中を歩く事も出来るようになってる

そして

次は源義経用の武器である

武器は天剣”天之尾羽張”

重量 2 k g（義経専用）

この武器は相手を氷漬けにする特殊効果がある

防具は

シールドエンブレムである

大和「まあ、この位かな。これを彼女達に渡せば完璧だな。」

真龍「この武器を燕や義経に渡すのですか？果たして彼女達に扱い出来るでしょうか？」

大和「彼女達なら出来るだろう。そう信じるしかない。」と言った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8676q/>

真龍が直江大和に憑依した。

2011年4月15日18時30分発行